

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年8月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673400091
法人名	社会福祉法人 曙福祉会
事業所名	村長の家 認知症対応型共同生活介護事業所
所在地	鹿児島県日置市吹上町永吉14145 (電話) 297-3480
自己評価作成日	平成22年7月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成22年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

村長の家の自慢は、築80年位のこの建物とこの家を大事にしてきた地域の皆さん方です。

合併する前の永吉村の村長さんの家だったこの村長の家は永吉地区の中心地に位置し、広大な敷地と武家屋敷風の門に囲まれ昔懐かしい風情ある建物です。改修工事の時は地域の皆さんが総出で手伝いをして下さり村長の家の開設を喜んで下さいました。

又、かねてから地域の要望のあった児童クラブを併設した事で、より地域の拠点として子供達や若いお母さん達が集う場所となりました。日々の暮らしの中にも三世代同居のような温かさがあり、のんびりとしたより家庭的な暮らしが営まれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・平成12年に、旧村長の屋敷を改築してグループホームとして開設し、名前の由来になっている。

・近くに寺や学校・商店等があり、同敷地内には、児童クラブも併設され、地域の子供たちや若い母親たちとの交流の場になっている。

・自治会に加入し、回覧板を届けたり、生き生きサロンやボランティアの訪問・地域行事への参加等、地域の中にとけ込んでいる。

・毎月行っている防災訓練は、自治会の組織体制にも組み込まれて、協力体制ができています。

・職員は、理念に沿ったケアに努め、常時話し合いの機会を設けて前向きに、日々取り組んでいる。

・利用者と職員は家族のように親しく、和やかでのんびりとした雰囲気にも包まれているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	H20年開設当時からの理念を見直し、地域密着型とは？ということを出発点に、今自分たちの実践しているケア、そしてこれからもしていきたいケアを出し合い、新しい理念を自分たちの言葉で作りました。ホームの目につく所に理念を貼り、その理念は個々のケアプランやホームの行事などに生かしています。	管理者や職員で話し合いを行い、事業所独自の理念を作り上げている。また、理念は、目につくところに掲示し、ホームの行事や家族会時にスライドで理念を紹介したりして、日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	先日は地元の自治会の方々が防災のための訪問をくださり、建物の見学や火災報知器などの設備、利用者さんの様子などを認識していただいた。自治会の奉仕作業に参加したり、夏祭り・みの笠市など地域の行事や運動会・収穫祭などの学校の行事にも参加している。生き生きカワ、ボランティア団体、婦人会の訪問などもある。踊りの先生の発表会に出演させていただいた。自治会に入り回覧板を届けたりしている。	自治会に加入し、回覧板を届けたり、地域や学校の行事に参加している。また、地域住民やボランティアの訪問・生き生きサロンに出かけたり、児童クラブの子供たちとの交流等、日々の生活の中で、事業所が地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	H21年には喜楽奈里開設10周年の集大成として、記念行事を開催し、認知症についての講演会やシンポジウムを行い、たくさんの方に来て頂きました。また地域の公民館や高校に出向き、認知症や人権問題等の講演をしたり、スタッフはそれぞれの自治会で生き生きサロンや婦人会等でそのノウハウや知識を生かし、主体的に活動しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年6回の会議では、テーマを決め、利用者さんの状況について報告説明を行ったり、スライドにて行事の様子や日常生活ぶりなどを紹介しています。また外部評価については、プリントを配布し、一緒に改善策を協議していただいたり、実際に防災体制や生き生きサロンとの交流など実践に生かされています。</p>	<p>会議は、年間計画をたて定期的開催し、事業所の状況や報告を行っている。また、テーマを決めて、地域の各分野からの参加があり、防災体制についてや生き生きサロンの交流等、充実した運営推進会議を開催し、サービスの向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>簡単な書類提出でもできるだけ出向き、窓口顔を出し、話を交わしたり、電話等でも担当者と直接話し、近況など伝えています。</p>	<p>母体法人との関わりもあり、できるだけ行政の窓口に出かけていき事業所の実情や相談等をしている。運営推進会議に参加したりして協力関係を築きながら連携を取っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催し、全スタッフで勉強をしている。研修会へも参加し、内容を全員に報告。定期的にミーティングで身体拘束について学び、正しく理解しており身体拘束のないケアを実践している。</p>	<p>見守り第一でケアに取り組み、日中は、玄関の鍵をかけていない。また、身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催し、全職員で勉強会を行っている。研修会にも参加し、定期的にミーティングを行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法に係る研修会に参加し、研修報告をもとに皆で勉強会をしています。年に1回は虐待防止についての勉強会を開くように計画し、スタッフ全員がその意識を高めるように努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	人権擁護及び成年後見制度についての研修会に参加をし、その報告もかねて勉強会を行いました。また昨年当ホームに成年後見制度を利用している方が入所され、さらに身近に感じる事ができるようになり、意識を深める事ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、わからないことはないか、不安や心配に思っていることはないかなど尋ねながら、進めています。また改定等の場合は、資料を準備し、家族会を開くなどし、法人理事長や事務長などにも出席をもらい丁寧に説明しています。また必要に応じて、個別面談なども行い、家族の意向や意見など聴いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱を用意してありますが、利用者さんには、ケアプラン作成の時などいろいろな希望や思っていることなどを話していただけるよう、マンツウマンで聴いています。またご家族には、面会時をはじめ家族会のときやケアプラン担当者会議のときなど、ケアのことだけでなく広く運営のことなども含めて話していただけるよう、ざっくばらんな雰囲気而努力しています。	家族の面会時には、意見や要望の表出について声かけを行っている。ケアプラン作成時、家族会等から、いろいろな意見が出ている。出た意見・要望は運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎年、年度末には職員へアンケートをとり、事業計画にかかる提案やそのほか自分の働き方についてや日頃思っていることなどをざっくばらんに書いて、直接園長に提出してもらっています。それら提案事項について、皆で話しあう機会を設けています。また個人的なこと等については、個別に話ができるようにしています。	毎年、年度末に職員アンケートを行い、内容をまとめて全体会議で発表し運営に反映させている。また、個人別にも聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は日ごろから職員の勤務状況の把握もできており、スタッフの希望に応じた休みを組み込むなど、職員のストレスの軽減も図り、働きやすい環境となっています。個々の職員の働くスタイルの応じて、できるだけ条件の整備に努力しています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年度で研修計画を立て、それに沿って研修を行っています。対外研修への参加も積極的に行い、個々の経験や資格に応じた研修に参加できるように配慮し、またホーム内においては、職員自身がテーマを考えて取り組む自主勉強を行ったり、今年度は、親善大使と称して、職員が様々なアイデアを出し、ケアを実践できるような取り組みも試みています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>国、県、薩摩半島地区のGH連絡協議会に加入し、研修を通じて同業者と意見交換をする場があります。また、他のGHに視察研修に行き、見たり話をする中で、いろんな気づきが生まれ、それらをケアに活かせるようにしています。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所の時には家族さん、本人から日々の生活の様子を詳しく伺い、慣れるまでの間は特に見守りや声かけを十分に行っています。今までの生活習慣を大切にしながら、安心して生活していただけるように、入所時は特に配慮しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所を希望してこられてから実際に利用に至るまでは、状況はいろいろ変化をし、家族の気持ちもその時々で揺れ動いています。これまでに至る経緯も含め、家族の気持ちを十分に聴き、信頼関係を築く第一歩となるよう、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、法人の支援センターの職員や他事業所の職員に繋いだり、或いは同席してもらい一緒に話を聴き、多方面から検討し、今、困っている事の解決に向けて一緒に考えられるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事作りや昔ながらの行事など利用者さんが主体となる場面が多いです。実際に利用者さんにいろいろ聴いて、椿油を絞ったり、味噌をついたり、ちまきを作ったり、そういう場面は日常のあらゆる場面であります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話或いはホーム便りなどには、本人の喜ばれた事、嬉しかったことなどを伝えるようにし、家族さんと一緒に喜べるようにしています。また面会の際には、気兼ねなく過ごせるよう、場所やお茶など配慮し、家族との時間を大事にしています。また病院や美容院への外出など、負担のないよう、できるところの協力をいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が通っていた美容院やかかりつけの病院を引き続き利用しています。また門徒であるお寺も近くにあり、お参りに行っています。以前習っていた踊りのお師匠さんもしゅっちゅう来て下さり、一緒に踊りを楽しんでいただいています。	美容院や寺・自宅周辺に出かけたり、踊りの師匠や近隣の知人が来訪し交流している。馴染みの場所や人との関わりが持てるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の相性、関係をよく把握をし、食事の席やお茶を飲む場所などを考えています。その時々で相性が変わったりするので、その都度変更して、気持ちよく過ごせるよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移られた特養や入院先などに顔を見に行ったり、家族さんからその後のことなど電話で相談を受けたりもします。また退所されてからも村長の家へ差し入れを持ってこられたり、遠くから帰ってこられた際には顔を出して下さったりします。移転先で亡くなられた際なども、お見送りにも行ったりと、交流が続いている場合が多いです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時は本人の希望を聞いています。どう暮らしたいか～1対1で向き合い、じっくり話を聴くようにしています。言葉でうまく言えない方は、かねてから本人の好きな事、喜ばれたことなどをケアプランに反映できるよう努め、できるだけ本人の思いに近づけるように努力しています。	本人のやりたいこと、出かけたところ、食べたいもの等を、ケアプラン作成時や日々のケアの中で把握している。家族からの情報も参考にしている。困難な場合は表情などからくみ取り、職員で話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネージャーやそれまで利用していたサービス事業所の職員から、状況をよく聞き、情報提供書を頂き、生活歴などの把握に努めている。またそれらは全員が目を通すようにし、ミーティング等で確認している。また本人や家族からもよく話を聴くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに基づいて一人一人にあった生活をサポートしています。その人の体調やその時々々の調子に合わせて横になっていただいたり一人ひとりの一日の過ごし方ができています。外出の好きな方には買い物などお誘いしたり、子供が好きな人には学童のこども達とふれあえる機会を設けたりしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議では事前に本人から伺った希望や主治医からの意見（照会状）、スタッフで話し合った意見をもとに、家族をはじめ計画作成担当者、管理者、看護師、ケアスタッフ等がそれぞれの立場で更に意見を出し合って本人に必要な支援を検討し、プランの作成を行っています。1ヶ月ごとにモニタリングを行っています。	モニタリングを毎月行い、担当者会議では、医師・看護師・家族・職員で話し合いをして、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、日々の様子やケアプランに沿った内容、本人の表情や言葉、新たな気づき、変化などを記載し、誰もが見やすいように気をつけています。勤務に入る前には記録や連絡帳を確認し、状態の把握を行うと共に統一したケアが行えるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面においては、義歯などの調整になかなか受診できない方のために歯科医に往診を依頼したり、またかかりつけ医には定期及び緊急時の往診もしていただいています。また入院された場合など、病院に足を運び、病状の把握や主治医と連携が取れるようにしています。また家族が入院中で面会にこれない方へは、本人と一緒に見舞いに行くなどしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で活動されている方にボランティアに来ていただいたり、婦人会や生き生きサロンの皆さん方に来ていただいて交流を図っています。また近くにお寺や小学校もあり、よくお参りに行ったり、行事に参加したり、散歩に行ったりもしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどすべての方がこれまでのかかりつけ医を入所後も継続しています。そうすることによって、家族も本人も安心して入所し、その後の生活も不安なく送れていると思います。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。かかりつけ医との連携を取り適切な医療が受けられるよう支援している。また、通院も家族と話し合って支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について入居時やプランの面談時に話し合う場を設けており、その際、併せてハード面や人員、看護師、ホームでできること、できないことなど説明をし、理解して頂けるようにしています。本人の状態に変化がある際はその都度、家族と話し合い、今後、どうしていくかを決め、話し合われた内容はスタッフで情報を共有し、同じ想いで支援にあたるようにしています。	利用開始時に、重度化対応への指針を説明し、同意書を取っている。状態変化の折には、支援について、そのつど本人・家族・職員で話し合いを行っている。重度化した場合の指針を職員は共有しており、チームで取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や普通救命講習会の研修に参加をし、それをミーティングで全スタッフに報告しています。実際に実技を行ったりして、緊急時に備えています。また心肺蘇生法やAEDの使い方なども研修を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火災や水害、地震など様々なケースを想定して防災訓練を行っています。運営推進会議での話し合いがもとで自治会に村長の家を含めた防災組織もでき、緊急時協力を得られる体制が整っています。自治会の防災訓練にも参加をし、先日は自治会の方々にホームにきていただき、消防設備や避難経路の確認をして頂きました。	毎月、火災・水害・地震等を想定して避難訓練を行っている。また、自治会の防災組織体制もできており、自治会の防災訓練にも参加している。自動通報装置もある。災害時の水や食料品等の備蓄も整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できないことやわからないことについても、さりげなくゼスチャーや小さな声で伝えるなどし、また排泄の失敗や食事の場面などにおいてもさりげなくフォローしています。本人を目立たせないよう、人格や誇りを尊重するよう努めています。	排泄パターンを把握し、様子でさりげなくトイレへ誘導したり、排泄時の失敗や食事の食べこぼし等、本人の誇りやプライバシーを損ねないように小さな声やゼスチャー等、工夫しながら言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着たい服や食べたい物飲みたい物など日常のこまかな場面で希望を聞いています。飲み物などは、コーヒーとお茶とどちらがいい？といったように選択しやすい声かけを行うようにしています。また入浴やお出かけなどについてもその都度気持ちを聞きながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きたいときに起きていただいて、ご飯も食べたくないときは時間をずらし、眠りたいときはゆっくりにお昼寝をしていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その時々で気分でおしゃれやお化粧を楽しんでいる。今日着る洋服を自分で選ばれる人もいます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付けまで利用者さんと一緒にするようにしています。誕生日会では好みを聞いてメニューに取り入れています。刻んだり、すり潰したりその時々で利用者さんの状態に合わせた食事形態にし、おいしく食べていただけるよう支援しています。	利用者と職員で一緒に、食事の準備や配膳・片付け等を行っている。また旬の野菜を使った料理や利用者の好みの献立を作って、食事時は談笑しながら楽しく支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と食事量は毎回チェック表に記入。同一法人の栄養士が立てた献立を参考に。内臓障害や下痢などの方に栄養士より指示を仰ぎ取り入れたり、嚥下障害のある人へはとろみ使用、水分摂取の少ない方へはコーヒーなど好きなものやゼリー状にするなど工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。週一回はボツリソール消毒。食事前のお茶でのうがい。歯磨きができない方へは専用のボツリソールやうがい薬を使っての口腔ケアを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	しぐさや落ち着き具合を見ながらトイレ誘導を行ったり、タイミングを合わせて行っています。できるだけトイレでの排泄が行えるよう支援しています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングやしぐさから察知しトイレ誘導を行っている。排泄への自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事について、ヨーグルト、惣菜の乳製品の摂取やお芋など食物繊維をたっぷりとするように工夫しています。またドライブに行くことも効果的。できるだけ自然排便につながるよう、努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	おおまかな時間帯は決まっているが、本人の気分を聞きながら無理強いはせず気分よく入浴していただくようにしています。午前入浴が多いが、その日の利用者さんの状況に合わせて時間を変更している。	入浴は、毎日行っている。午前中に入浴を希望する利用者が多い。入浴が楽しみになるように、声かけを工夫して支援を行っている。状況に応じてシャワー浴も利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝したい人はゆっくりしていただいたり、ソファで横になってくつろいだり、朝寝したい人はゆっくりされ、寝付けな人には話し相手になったり、添い寝をしたり、安心して眠りにつけるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表、すぐに見れるようにファイルをつくっています。状態の悪い方はこまめにチェックしながら看護師・主治医との連携を密に図り、薬の変更があった際には、連絡帳などで確実に申し送りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、つわむき、箱作り、団子作りやちまき作り、つるし柿、干し大根、みそ、梅漬けなどそれぞれに、皆さん昔からやってきたこと、得意とすることなどをやっていただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	踊り発表会の見学に市来まで行かれたり、病院受診の後には、家族と自宅に帰りご家族で食事をされたり、病院受診の後入院中のご主人のお見舞いへ。ご家族と外食へ行かれたり、法事に行かれたり、墓参りに行ったりされています。	日常的には広い庭での散歩を行っている。公園等にドライブで週2回出かけたり、お弁当を持って花見や外食に出かけている。家族と協力しながら墓参りや法事・見舞い等に、家族と一緒に外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お小遣い程度持っておられる方が、一人いらっしゃるが買い物に行かれた際77などのお菓子を買ったりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望されるときにはいつでも電話をかけられるようお手伝いし、またお部屋に電話のある方も一人おり、家族さんと会話を楽しんでおられる。また手紙やはがきなど来た際には、読んで差し上げたり、こちらからお便りを出す手伝いをしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾っている。冬場は加湿器を使用し湿度の調整をしている。梅雨時期には除湿機や布団乾燥機を使用。テレビの音量や職員の声が大きくなりすぎないように配慮し、日常の台所の音やお互いのはなしごえ、いい音楽など生活感のある音やざわめきを楽しんで生活できている。	部屋のあちこちに季節の花が飾っており、共用空間には畳の間やゆっくりとくつろげるソファが置いてある。玄関は、車椅子用のスロープがあり、縁側から庭へはフラットになっており開放感がある。自分の家にいるような感じで、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の会う人同士で縁側に行かれたり、洗面所前のソファでくつろいでいたりしている。ホーム内にはいろんなところにくつろぐ空間があり、ソファや椅子が用意してある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使い慣れた家具や物を持ってきていただいている。馴染みの空間作りをし安心して過ごしていただいている。家族との相談はよくできている。模様替えも家族と相談しながらしている。	居室の入り口には木の表札がさりげなくあり、各室は畳の間で、使い慣れたテレビや筆筒・鏡・人形等が置いてあり、本人が安心して居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を「お便所」と表示し、見やすい高さに表示している。また居室の表札も目の高さに合わせたり、目めくりカレンダーも大きい文字のものを使っている。ホーム内の手すりも必要に応じ設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない